

追悼 野見山 暁治 野っ原との契約

前期 10/6(日)～11/10(日) 後期 11/12(火)～12/25(水)
10:00～18:00(入館は17:30まで) ※月曜休館(ただし、10/14祝・11/4(休)は開館、10/15(火)・11/5(火)は休館)。
※前期と後期で展示作品が変わります。

▶観覧料:一般500円、高校・大学生と65～74歳の方300円、中学生以下と75歳以上の方無料 ※一般以外の方は、年齢などを確認できるものが必要です。 ※その他割引制度あり。
場所・問合せ 練馬区立美術館 ☎3577-1821 お休みします [展示作業のため] 9月24日(火)～10月5日(土) 練馬区立美術館 NERIMA ART MUSEUM

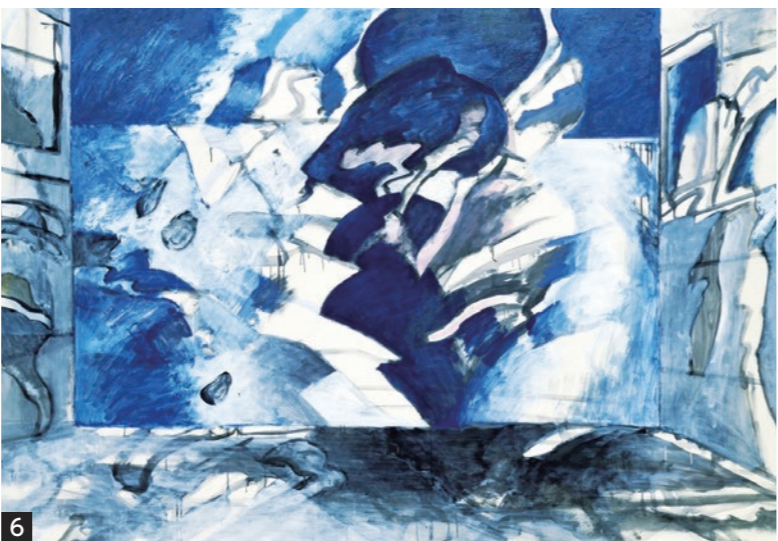
前期 (10/6～11/10) 東京美術学校時代～フランス留学に迫る

西洋への憧れをもって描いた暗い色調による構造的な作品から、フランス留学を経て自由な線描と明るい色面の作品へと変化していく様子をご覧ください。



後期 (11/12～12/25) 日本帰国後～晩年に迫る

山や海などの自然のダイナミックな動きを、独自の視点で切り取り画布に定着させていきます。大胆な筆遣いと繊細で豊かな色彩をご覧ください。



通期 練馬に構えたアトリエに迫る

アトリエでの野見山さんのインタビュー映像や本展のために新たに撮影したアトリエの映像、アトリエに残された道具や愛用の品をご覧ください。



- 1「マドの肖像」昭和17年 油彩・キャンバス 当館蔵
- 2「廃坑(D)」昭和26年 油彩・キャンバス 当館蔵
- 3「崖」昭和36年 油彩・キャンバス 当館蔵
- 4「目にあまる景色」平成8年 油彩・キャンバス 当館蔵
- 5「九月の空」昭和47年 インク・ガッシュ・紙 当館蔵
- 6「ある日」昭和57年 油彩・キャンバス 当館蔵
- 7～9「野見山暁治の練馬のアトリエ風景」令和6年 撮影:名和真紀子

それが野っ原との契約だ
風化しなくちゃいけない。
実のところ絵も



幼い頃から「野っ原」で絵を描くことに喜びを感じていたという野見山さんは、やがて「人間が生み出したものは、いつか必ず風化する」という自然の摂理に気付きます。それは自身の描いた絵も同じこと。悠久の時間を刻み続ける自然に対して、あまりにはかない人間の営み。そのかけがえのなさをかみ締め、それでもなお描き続けることこそが、野見山さんが「野っ原」=アトリエと取り結んだ契約だったのです。

略歴

大正 9年	福岡県穂波村(現飯塚市)で生まれる
昭和 18年	東京美術学校(現東京芸術大学)油画科を卒業
23年	第12回自由美術家協会展協会賞を受賞
27年	フランスへ留学。39年に帰国
43年	東京芸術大学助教授に就任。47年教授に就任し、56年に退官
46年	練馬区に自宅兼アトリエを構える
平成 4年	第42回芸術選奨文部大臣賞を受賞
12年	文化功労者に選定される
17年	第53回菊池寛賞を受賞
26年	文化勲章を受章
29年	練馬区名誉区民に選定される
令和 5年	102歳で逝去

区の文化芸術に貢献いただきました

平成8年に当館で開催した「野見山暁治展」や29年に開催した「練馬区名誉区民顕彰記念 野見山暁治収蔵作品展」のほか、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会応援アート「こんな風の話」(=写真)を制作するなど、区の事業に多大な貢献をされました。

◀アートには、区民の皆さんのハンドスタンプを使用しています

芸術家としての野見山を知る

——練馬区立美術館学芸員 木下紗耶子さん

ダイナミックかつ繊細な野見山作品

102歳の最晩年に至るまで意欲的に創作を行ってきた画家・野見山暁治。長年の画業を通して探求と変容を積み重ねながら得た作品の特徴は「ダイナミックかつ繊細」。大胆な筆遣いと繊細で豊かな色彩による独自の世界観があります。

展覧会オススメの一作「マドの肖像」

野見山作品を約80点展示する本展のなかで、ひときわ当時の時代背景を感じさせる作品が「マドの肖像」(=写真1)です。太平洋戦争で旧満州に出征する直前に妹・マドさん(本名・淑子)を描いた本作は、後期の開放的なタッチからは意外なほどの暗さが漂います。出征が迫り、自分が描くべきものは何か。今後、絵を描くことができないかもしれない。そうした葛藤のなかで、若き日の野見山が描いた貴重な作品です。

アトリエの風景にも注目

本展では、野見山の創作活動の拠点となった練馬のアトリエにも焦点を当てます。アトリエに残されたドライフラワーや貝殻といった事物やそれらの丹念なスケッチがどのように絵画に展開していったのか。野見山の創作のプロセスを垣間見ることができる、またとない機会です。

会期中の催し

催し名など	対象	日時	定員(抽選)	申込期限(必着)
1 講演会 「修復を通じて知る野見山暁治」 ▶講師:絵画修復家/村松裕美	中学生以上	11/2(土) 14:00～15:00	30名	10/18
2 ワークショップ 「野見山暁治の絵とことば」	小学生以上	11/17(日) 13:30～16:30	10名	11/1
3 講演会「野見山暁治の絵画世界～目に見える現象の奥に潜むもの」 ▶講師:(一財)野見山暁治財団 評議員/中村節子	中学生以上	12/22(日) 14:00～15:30	40名	12/6

▶申込:同ホームページまたは往復ハガキで①催し名(1～3の別名)②参加者全員(2名まで)の住所・氏名(ふりがな)・年齢(学生は学年も)・電話番号を、申込期限までに〒176-0021 貫井1-36-16 練馬区立美術館へ ※1③は観覧券の半券、2④は当日の観覧券が必要です。

人としての野見山を知る

——(一財)野見山暁治財団事務長 山口千里さん

約50年にわたって暮らした練馬区

野見山先生が練馬区に自宅兼アトリエを構えたのは昭和46年のこと。フランスから帰国後、しばらくは妹・マドさん(本名・淑子)とその夫で作家の田中小実昌さんの家に居候していたのですが、創作に手狭になったことから、戦前に集った池袋モンパルナス(※)から近い練馬区を選んだと聞いています。

最晩年までご健脚だった野見山先生は、石神井川沿いや高稲荷公園を歩くのが日課でした。小さなスケッチブックを携えて地面にできたシミの形を描いたり、枯れ落ちた花を持ち帰ったりと、絵のモチーフを発見する大切な時間だったようです。

※昭和初期から戦後にかけて、豊島区池袋周辺にあったアトリエ付き貸家群。

おちゃめで優しい。決して威張らない

ボツリと冗談を言っては周囲を笑わせるおちゃめな人柄。どれだけ評価を得ても決して権威を振りかざすことのなかった野見山先生は、パブリックアートにも熱心でした。令和3年に区民の皆さんと創作した「こんな風の話」は、長年暮らした練馬区に残した区民への遺言のようなものだと思います。また、野見山先生は、リニューアル後の美術館に期待されていました。私も今から完成が楽しみです。

世帯と人口 [9月1日現在]

世帯数	総人口	日本人	外国人	年齢別人口
394,603 (-43)	男 360,273 女 385,082	男 348,182 女 371,867	男 12,091 女 13,215	14歳以下 84,634(-33) 15～64歳 497,013(-150) 65歳以上 163,708(+121)

※()内は前月比。※住民基本台帳による人口。

休日急患診療所

※保険証が必要です。

小児科	①練馬区夜間救急子どもクリニック(区役所東庁舎2階)☎3994-2238
内科	②練馬休日急患診療所(区役所東庁舎2階)☎3994-2238
小児科	③石神井休日急患診療所(石神井庁舎地下1階)☎3996-3404
歯科	④練馬歯科休日急患診療所(区役所東庁舎3階)☎3993-9956

▶受付時間:①平日20:00～22:30、土・日曜・祝休日18:00～21:30②土曜18:00～21:30、日曜・祝休日10:00～11:30・13:00～16:30・18:00～21:30④日曜・祝休日10:00～11:30・13:00～16:30